

尾花沢市議会だより編集委員会報告書

《委員長 鈴木 清》

I 行政調査

1. 日程及び調査先

日 程：令和2年1月21日（火）～22日（水）

調査先：群馬県榛東村、埼玉県寄居町

2. 調査事項 議会広報誌に編集等について

3. 参加者 鈴木清委員長 和田哲副委員長

塩原未知子委員 伊藤浩委員 菅野喜昭委員 安井一義委員

鈴木由美子委員

4. 報 告

◎群馬県榛東村

- ① 人口 14,676 人、議員定数 14 名と尾花沢市とほぼ同規模。群馬県の中央部に位置し、榛名山の東麓にあり、前橋市、高崎市、渋川市のベッドタウンとして人口が増加、全国の村の人口の順位で、9位となっている。
 - ② 平成 30 年度町村議会広報全国コンクールで、編集デザイン部門で奨励賞を受賞。前頁カラーになった経緯をお尋ねすると、費用はカラーでも値段はあまり変わらないため、平成 22 年からフルカラーにした所、住民に好評であるという。見開きでタテ・ヨコのパステルカラーの色使いの優しい大見出し、黒板調の頁ありでデザイン的にもすぐれている。「読みやすさ」「視認性のよさを重点に考えているという。
 - ③ 編集方針は明確な「編集要領」「発行規定」がある。「村民に議会活動を周知し、情報の共有を図るため発行する」とあり、議会改革の一環として議会だより位置づけられている。
 - ④ 「発掘！！輝く村人たち」の企画が、最終頁にある。インタビュー形式で、模範となる村民を紹介し、元気と勇気を与えられる記事にしたいという。「私のひとこと」の発展形として参考にしたい。
 - ⑤ 最後に、おばなざわ市議会だより 103 号（「子ども議会」特集）をクリニックしていただいた。
- 一般質問の頁は「である」でなく「です、ます」調の方が良いのではないか。
また、大見出しは 15 文字以内、お題目にならないように。
 - 写真のキャプターの工夫が必要。
 - 決算認定は、議会としてどんな理由で認定したかがわからない。
 - 議案に対して議員一人一人の賛否一覧表がない。
 - 総括質問の小見出しは項目ではなく、質問の形でも良いのではないか。

◎埼玉県寄居町

“読まれない議会だよりは出す意味なし！”

- ① 人口 33,342 人、議員定数 16 名。平成 29 年 30 年町村議会広報全国コンクール 2 年連続第 1 位、に日本一クオリティーの高い議会だよりを目指している町。
二年越しのラブコールでようやく視察が実現した。熱意ある私たちの視察に熱意ある対応をしていただき、白熱した研修となった。以下質疑応答を中心にまとめ報告したい。
- ② Q. 「一般質問を一人 1 頁」をどう考えるか。寄居町では一人 1/2 頁から 1/3 頁（QR コード付）になりもの足りないと感じるが、背景は何か。
A. 全体の頁が限られているため 1/3 頁となったが、QR コードで動画が見れる。議員は個人経営ではなく、議会としての意志をつくり、合意形成をしていく必要がある。
- ③ Q. 「主役は住民」住民をどう参加させていくのか。
A. 二元代表制として、住民を味方にしていくため、取材をしている。表紙に K O E M E T E R をつくり、住民の声を載せている。
- ④ 議会改革の一環として議会報は「情報共有」「住民参加」の大事なツールである。QR コードを付け、紙ベースの議会報を作っている。最近では動画づくりも行っており、ユニバーサルデザインやバリアフリーにも気をつけている。
- ⑤ Q. 議会発政策サイクル（予算→監視→決算→提言）を行政とどうつないでいっているのか。
A. 各議員が項目の情報を集め、五段階で評価を下している。各自がどう考え、活動しているか、マニフェストにもなる。
- ⑥ Q. 毎号優れた企画だが、特集記事にいきづまったら、どうしているか。
A. 他町から視察にきた議会から「それは本来の議会の役割をはたしていないからです。一年の政策サイクルを回していれば、いくらでも企画は出てくるはず」と教えられました。。
- ⑦ Q. 議会事務局・委託印刷業者のかかわり方は。
A. 事務局は、行政・議会・業者の調整の仕事と原稿〆切の確認などがある。業者はレイアウトと編集技術のプロである専門性を生かしてもらおう。いわばある意味、三位一体の関係となる。
- ⑧ 最後に「アイデアを真似てもよいですか」の質問に、「私たちも全国の良い所を真似るところから始まりました。今、議会改革を進めないと、前に進めないことに気づいたんです」という回答だった。私たちも一步一步、寄居町議会報に努力して近づきたいと思います。



【群馬県榛東村議会】



【埼玉県寄居町議会】

Ⅱ 山形県市議会議長会 議会報研修会

1. 実施日 令和元年11月11日（月）
2. 会 場 東根市 花の湯ホテル
3. 講 師 山形県新聞社 東根支社長 小林 達也氏
4. 演 題 「伝わる文章 読んでもらえる議会報作り」
5. 参加者 鈴木清委員長・和田哲副委員長・塩原未知子委員・伊藤浩委員
菅野喜昭委員・安井一義委員 ・鈴木由美子委員

6. 報 告

新聞の手法を紹介していただきながら、魅力ある議会報づくりのポイントをアドバイスしていただきました。山形新聞の紙面を例に①分かりやすい記事の書き方②見出しの付け方③写真の撮り方④記事の基本要素5W1H⑤大事なことを先に書く「逆三角形の原則」の基本を学びました。最後に「様々な工夫を凝らし、議会の活動をしっかり伝えることが重要。市民に親しんでもらうツールとして活用してほしい。」とまとめられました。

当市議会だより 102号（6月定例会・表紙は祭山車模型）のクリニックは次の通りです。

- 2～3頁は（新庁舎と共に新たなスタート）は見開きで大胆なレイアウトなので読みたくなります。
- 4～5頁（新議会人事）は「公約を胸に市民の代表として奮闘します！」の見出しがあり、めりはりがある。
- 6～16頁（一般質問）は一人1頁で、目次・大小見出し・写真・イラスト・つぶやきがあるので読みたくなり、傍聴したくなる。
- 用語解説があり、全体として余白がある良い紙面作りです。